

コープさっぽろでは、平和活動として、毎年8月に「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ 平和スタディツアー」を実施してきました。

昨年2017年度は、ヒロシマに8名、ナガサキに6名、合計14名の中・高校生を派遣して、平和記念式典に参加し、平和交流会では地元の中高校生と意見交換などを行い交流をしてきました。

帰着後は全道各地区で報告会や平和の討論会を開催しています。全校集会など報告会を開催していただく学校も6校に増え、参加者は全体で1,652名となり、次世代を担う若い世代から同世代へ、平和の尊さを深く考えて思いを広く伝える機会となってきています。核兵器の恐ろしさを訴え、二度と戦争のない平和な世界の実現を願って、これからもこの活動は継続して行きます。

コープさっぽろは「ヒバクシャ国際署名活動」を2018年1月15日から2月24日の期間と設定し、全体の目標数を20万筆としました。

〔事前準備として、〕

2017年10月より組合員活動委員会、組合員活動部、店舗、宅配、広報室の責任者による事務局を立上げ、毎月1~2回の事務局会議で必要な準備を進めてきました。

組合員活動委員会では、12月15日に「核兵器廃絶を訴える学習会」を開催しました。講師に北海道被爆者協会事務局次長 北明邦雄さんをお招きし、『核兵器廃絶に向けて今できること』と題し、核兵器廃絶に向けた国内外の取り組みと、国連で採択された核兵器禁止条約やノーベル平和賞などの意義について学びました。また、北海道在住のヒロシマ被爆体験者からも原爆投下後のヒロシマの悲惨な状況をお聞きしました。この学習会は、ヒバクシャ国際署名のキックオフ大会として組合員の意識づけとなりました。TV会議システムを使用し全道22会場に発信、146人が参加しました。

オールコープで署名活動に取り組むに当たり、コープさっぽろの店舗・宅配センター・工場・関連会社での事前学習のための学習用リーフレットを作成しました。各事業所にて、1月5日~1月15日にかけて内部学習会を実施しました。

私たち組合員活動委員会では1万筆をめざし、店舗・宅配・工場の全事業所でも具体的な目標数を設定して、170万人の組合員さんに向けてスタートしました。

〔署名活動実施後〕

全108店舗では1月15日から店頭で署名コーナーを設置して、ポスターを掲示し、店内有線放送を開始しました。

宅配トドックでは2月5日から35万5千人の全宅配利用者へ署名用紙を配布して、留守宅が多い中、在宅利用者へ声掛けをし、翌週2月12日から署名用紙回収作業に

入りました。

〔取り組みの進捗・反響〕

開始約1か月後の2月18日集約で合計21万3,674筆と早くも当初目標20万筆を達成しました。

コープさっぽろ活動委員会のコープ会メンバーへの呼びかけをはじめ、店舗・宅配職員の利用組合員への声掛けにより、この取り組みへの関心が大きく広まり、「署名期間をもっと延ばしてほしい」、「もっと署名用紙を送ってほしい」などの声が連日寄せられました。

ある店舗での取り組みを見て、共感いただいた幼稚園から900筆を超える署名も寄せられました。

3月8日に、2月末までの署名22万3,825筆を北海道被爆者協会の眞田会長に引き渡しました。

〔取り組みの期間延長・目標修正〕

このような関心の高まり・賛同者の広がりを受けて、署名期間を5週間延長し3月31日まで取組むとし、目標を40万筆に修正しました。

追加の対策として、

- ・2月26日より宅配留守班へ署名用紙を再配布し、電話掛けを開始しました。
- ・3月5日より宅配納品書に署名の取組み案内掲載しました。
- ・3月21日から店舗のセールチラシに署名の取組み案内を掲載し、
合わせて可能な店舗では店内行動も行いました。

その結果、修正目標の40万には達しませんでした。3月31日集計で32万1,880筆となりました。

組合員さんからは、平和活動におけるコープさっぽろへの期待や賛同の声がたくさん寄せられ、核兵器廃絶への思いが広がりました。

コープさっぽろと組合員活動委員会は、2020年までこの署名活動に取り組み、組合員さんが願う「戦争や核兵器の無い世界」に向けた取組みを続けてまいります。

ヒバクシャ国際署名

3月31日実績



	目 標	署名筆数
Web署名	—	157
店 舗	40,000	55,511
宅 配	150,000	250,382
本部、その他	5,000	3,524
組合員活動委員会	5,000	12,306
合 計	200,000	321,880

核兵器をなくそう！ヒバクシャ国際署名ステップアップ集会報告

新婦人札幌手稲支部 高際洋子

新婦人手稲支部の高際洋子です。私は新婦人のこれまでの「核兵器の廃絶」のとりくみをお話いたします。新婦人は創立 56 年目を迎えますが、5 つの目的の最初に「核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします」を掲げて、地道に草の根の運動を続けてきました。その活動が認められて、2003 年 4 月に国連 NGO の認証団体となりました。

2 月に手稲で「雪っていいね・ていね」という雪の祭典を開きます。新婦人手稲支部は実行委員会に申し入れて、会場で会員が、核廃絶の署名をお願いして家族づれから毎年 200 筆を超える署名を集めてきました。「はだしのゲンを読みました」と言うお母さんや「平和のヒバクシャ会館の見学に行ってきたよ」という高学年の子ども達もいました。残念なことに今年から、会場内での署名を断られて歩道での宣伝となりました。

核廃絶の活動はどうしても夏だけのとりくみになりがちですが、私たちは 4 月から手稲駅で月に 2 回の署名行動を 10 月まで取り組みます。

最近は「どうして日本政府は、核廃絶の先頭に立たないのでしょうか」とか、「原発もなくして欲しいですね」などの声が聞かれます。

8 月には「原爆パネル展」を駅通路の「あいくる」で、10 日間ほど開きます。去年は手稲区のパネルを借り、手稲区のマスコットキャラの「ていね」君も登場してアピールしました。折り鶴を折ってもらったり、感想文もたくさん寄せられます。食い入るように見ていた男性は、「悲しいです、原爆はなくして欲しい、悲惨なできごとを忘れることなく伝えていきたい」と話されました。夏休みの子どもの連れ親や、孫と一緒に見て、悲惨な原爆のことを話して聞かせる姿に、やってよかったと思います。

何と言っても去年は 7 月 7 日国連での「核兵器禁止条約」が採択されたことは、大きな喜びとなりました。3 月の国連の会議で、新婦人の中央の笠井貴美代会長が「市民社会」の代表として発言する機会があり、私たちの運動が認められたと感動しました。

そして 9 月 6 日、核兵器禁止条約の制定の努力が認められて「ICAN にノーベル平和賞」が授与される事が決まりました。丁度、手稲支部では 10 月 1 日に平和の「うたごえ喫茶」を企画していましたが、早速「ICAN がノーベル平和賞を受賞しました」の大きな垂れ幕をかかげ、100 人の参加で「青い空は」「折り鶴」等のうたを歌い、まるで私たちが受賞したかのように喜び合いました。

原水爆禁止世界大会にむけて国民平和大行進は今年 60 年を迎えます。5 月 6 日に礼文島

を出発して8月4日広島までつなぎます。

手稲では6年まえから新婦人がよびかけて、網の目コースを行進します。距離は短いのですが、地元でアピールすることや、気軽に参加出来る事で、毎年100人以上が参加し「一歩でも二歩でも一緒に歩きましょう」と子どもからお年寄りまで、幅広い人が参加してくれます。

商店街を訪問して行進を知らせるステッカーを貼らせてもらい、当日は手を振って応援していただいています。今年も18団体で実行委員会を開き、5月19日に150名の参加目標で計画しています。

原水爆禁止世界大会には、毎年代表を送り出しています。被爆者のお話や、世界中からの参加、そして若者の参加が多く、元気をもらって帰ってきて報告会も開いています。

若い世代につなげていく課題もあります。寺子屋の子どもたちと一緒に、「ヒバクシャ会館」の見学会をしたときには、展示されている谷口すみてるさんの焼けただれた背中の写真に見入る姿や、被爆者のお話を真剣に聞く様子を見て、真実を知らせていくことの大切さを実感しました。これから孫達にもどう伝えるかを考えています。怖い・恐ろしい・辛いことをしっかり受け止め、核兵器はいらないと主張する若者を育てることがたいせつです。

高校生や大学生の下校時間に合わせて、署名行動をしても「大丈夫です」と通りすぎます。おばさん達は「何が大丈夫なの」と？マークが点滅します。

これからも地道に、あきらめずに、「名もなき市民が世界を変える」を合言葉に核兵器のない世界をめざし運動を続けていこうと思います。

核兵器廃絶平和宣言都市帯広と十勝での取り組みについて

帯広・十勝ブロック原水協事務局長 櫻谷 和博

帯広・十勝ブロック原水協事務局長の櫻谷と申します。事務局長を務めてからわずか3年目で、藤岡理事長・竹腰前事務局長はじめ、原水協の役員や加盟団体の皆さんの助けを借りて、何とか活動を続けています。

今日は、2016年4月に開始された「ヒバクシャが訴える国際署名」を行政に働きかけながら、どのように広げていったかなどについて、お話ししたいと思います。ヒバクシャ署名の署名数は、3月17日の原水協総会の時点で、目標数20,000筆に対し、19,345筆でした。

ご承知の通り、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」は、日本被団協をはじめとする「ヒバクシャ国際署名」推進連絡会に参加する団体を中心に運営されており、2020年までに世界で数億の署名を集めることを目標にしています。

そして、1991年に国連NGOに登録された、平和首長会議は、2016年11月に平和首長会議国内加盟都市会議総会を開き、平和首長会議として「ヒバクシャ国際署名」に賛同・協力することを決定しました。帯広市は1991年に核兵器廃絶平和都市宣言を行い、2008年には平和首長会議に加盟しているので、これは大きなチャンスだと思いました。

帯広原水協事務局長の私は、平和都市宣言推進実行委員会の委員をしていましたので、2017年の4月に竹腰前事務局長とともに推進実行委員会を担当する市民活動課の課長を訪問し、平和展やコミセンなどで一般署名コーナーの設置を依頼しました。後日、開催された核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会に出席して改めて提案し、委員会の賛同を得ることができ、帯広市内のコミセンや帯広市が主催する原爆パネル展に平和首長会議の署名とともに「ヒバクシャ国際署名」コーナーを設置することが了承されました。このように、原爆展やコミセン設置の署名コーナー、市の職員に回覧して集めた署名数は合わせて800筆を越えたと聞いています。

実行委員会の事業としては、「国際署名」コーナーを設置した、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真展(7/27～8/2)と語り継ぐ核兵器廃絶平和展(8/3～8/9)、その他、平和の絵・詩の募集と平和カレンダーの配付、平和コンサートなどがあります。

さらに、原水協加盟団体からの意見もあり、2月3日に「帯広氷まつり」の本部付近で、「ヒバクシャ国際署名」の取り組みができないか、推進実行委員会を通じて要請したところ、帯広市が推進している事業として、「氷まつり」実行委員会の許可を得ることができました。当日は、実行委員の6～7名が署名活動に参加し、40分ほどで、119筆の署名を集めること

ができました。特に、「帯広市が推進している『ヒバクシャ署名』に是非協力を」と呼びかけると、反応が良く、集団で遊びに来ていた小・中学生も署名に協力してくれました。

次に、今年の平和大行進について、その特徴をお話しします。

- ①例年のように19全自治体を訪問することができました。
- ②ヒバクシャ国際署名の肩書署名に、新たに首長2名、副首長1名、議長2名、教育長3名が署名し、自治体関係者との対話が進みました。これで、昨年と合わせて94名が署名しました。
- ③何人かの首長、議長、教育長などに「ヒバクシャ国際署名」を要請したら、全員が用紙を預かって検討することを約束してくれました。のち、郵送された分は以下の通りです。
(特に、前事務局長の竹腰さんが、精力的に声をかけてくれました。)
 - ・新得町議長（議員11筆分の一般署名） ・新得町教育委員会7筆
 - ・鹿追町教育委員会9筆 ・幕別町役場総務課343筆 ・本別町副町長321筆
 - ・足寄町長332筆 ・清水町長150筆 ・新得町長133筆 ・芽室町役場労組133筆
- ④平和首長会議未加盟の自治体に資料を渡し加盟を要請しましたが、どこも好意的でした。
 - ・豊頃町は昨年加盟、陸別は次年度に加盟する予定。あとは、鹿追町のみ未加盟。
- ⑤足寄町商工会、日専連ジェミス、陸別森林組合から「国際署名」が郵送されました。
 - ・足寄商工会15筆 ・日専連ジェミス25筆 ・陸別森林組合12筆
- ⑥今年は新たにJA大樹組合長から署名・募金を集め、また、例年訪問の農協、商工会、森林組合の方々の協力を得ることができました。

今までお話しした以外の「ヒバクシャ国際署名」の取り組みについては、「6・9 行動」の他、7/31～8/9に帯広および芽室での連日署名、町村の戸別訪問署名、9/23・24の「平和の波」行動、10/30の「国連軍縮週間」などで、署名活動を行いました。

また、原爆展は事務局が把握しているものとしては、新婦人や原水協、あるいは自治体主催で、帯広・幕別・芽室・音更・士幌・浦幌・大樹など12か所で開催されました。さらに、今年は、「平和の波」行動として、原爆パネル展を9/26～28に帯広市役所1階で開催しました。年間を通じての開催を追求することが今後の課題です。

《事務局把握》

- Ⓧ 帯広新婦人…8/15～16（市役所） Ⓧ 芽室新婦人…8/4～8/9（図書館）
- Ⓧ 音更町主催2か所（役場・木野支所） Ⓧ 音更新婦人…日時不明（図書館）
- Ⓧ 幕別原水協…7/26～31（札内コミプラ） Ⓧ 幕別町…日時・場所未確認
- Ⓧ 士幌…8月（総合研修センター） Ⓧ 浦幌…9月～（町博物館）

④帯広市核廃絶実委…7/2～8/2（藤丸） ④大樹町…8/6～8/20（道の駅コスモール）

以上で、帯広・十勝ブロックの取り組みについてのお話を終わります。

（2018年4月21日）